当院臨床検査室はどのようにして学術活動の低迷期を脱したか

～学術活動振興キャンペーン“学術 BOOTCAMP”の紹介とその効果に関する分析～

◎天野 剛介[1)]、田上 智也[1)]、朴 瑞希[1)]、後藤 優依[1)]、原田 隼佑[1)]、岡田 茉梨花[1)]、佐々 久美子[1)]、丹羽 京太郎[1)]
岡崎市民病院[1)]

背景）当院は学術活動が病院のブランド化や患者・スタッフ満足度向上に繋がるものとし、奨励している。特に臨床検査室が所属する医療技術局では、独自の学術集会の実施、学術活動の点数制導入などを行い、学術活動を推奨してきた。一方我々臨床検査室では、2020 年の学会発表 0 件、研究班員 0 名、学会での質問が無いなど学術活動は低迷し、院内外における存在感のなさに繋がっていた。これ問題視した我々は学術ワーキンググループを立ち上げ、“学術 BOOTCAMP”と銘打った学術活動振興キャンペーンを実施したので報告する。
目的）学術 BOOTCAMP の効果や有効性を検証する。
方法）学術 BOOTCAMP の活動内容として、2020 年より主に以下 3 項目を軸に活動した。
①発表サポート：入職 3 年未満のスタッフを対象、発表のテーマと専任のサポーターを与え、学会発表までをサポートする。
②質問トレーニング：質問の作法や方法に関する勉強会を実施した上で、勉強会にて輪番制で質問実施。
③学術勉強会：統計やスライド作成法、文献検索等学術活動に関する勉強会を実施。
また参加者に対しアンケート調査を実施した。
結果と考察）活動の結果、当院検査室における学会発表の件数は 2020 年の 0 件から 2023 年は受賞演題 2 件を含む 13 件（全国学会 5 件、地方学会 6 件、その他 2 件）と質・量共に改善した。また、アンケート調査の結果より、①発表サポートが学術活動振興に貢献すると答えた者は 94%、②質問トレーニング 56%、③学術勉強会 94%であり、特に発表サポートと学術勉強会が有効であったと考えらえた。また、発表サポートにて発表者を担当した者のうち、活動により学術活動への興味が増加したと答えた者は 100%であり、若手職員にとって発表経験が学術活動への入り口として有効であったと考えられた。
結語）学術 BOOTCAMP は学会発表数の増加、学術活動への興味の増加に繋がり、その有効性が示された。

連絡先—0564-21-8111